令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 辻 小学校 ）　　学校番号　０２４

目指す学校像	「愛情と信頼に支えられた、夢と希望をはぐくむ学校」 学べてよかった学校　地域とともにある学校・通わせてよかった学校　勤務してよかった学校

重点目標	１　情報端末を活用した学びの自律、個別最適化と主体的・対話的で深い学び、探求的な学びの充実 ２　組織的な教育相談、生徒指導体制の充実による、安心・安全な学校の実現 ３　コミュニティ・スクールとしての理念・方策の共有とスクール・コミュニティとしての実践 ４　実践的な教職員研修と一人ひとりの教職員が支え合い、高め合う、同僚性の高い職場の実現

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○国語、算数ともに、ここ数年平均レベルの学力であるといえる。 ○日頃の学習の様子から、落ち着いて学習に取り組み、しっかりと話を聴いたり、基本的な計算をしたりする力がついている児童が多い。 〈課題〉 ○算数の「変化と関係」についての学習をさらに充実させていく。 ○国語の学習に対する興味、関心が高まるように指導法を工夫し、書く力を伸ばし、主体的な学びを充実させる。	・学びの自律、個別最適化、探求化の充実に向けた、情報端末の活用と授業改善	①情報端末を使って探求的な授業を積極的に行い、その効果を職員で共有する。 ②アンケートを活用し、児童の実態に合った授業改善を行う。	①年間を通して、情報端末を使った探求的な学習指導ができたか。 ②アンケート結果を生かして、授業改善が図られ、児童に変容が見られたか。				
		・特別の教科道徳の研究を生かした国語の指導法の工夫と、主体的、対話的で深い学びの充実	①道徳指導で、主体的で、対話的で深い学びに結びつく授業を展開する。 ②道徳指導の研究で培ったスキルを国語科の指導法改善に活かす。	①各学年で、道徳、国語の公開授業、研究授業を行い、主体的、対話的で深い学びの授業研究ができたか。 ②研究の成果を生かし、各教科で指導法が改善され、児童に変容が見られたか。				
2	〈現状〉 ○児童の学校評価で「毎日、元気に登校している。」「いじめや仲間はずれなどせず友達と仲良くできている。」の肯定的回答が９５%以上になっている。 ○昨年度、施設・設備に関わる事故は０だったが、老朽化が進んでいる。 〈課題〉 ○自己肯定感の低下や環境の多様化が進んでおり、生徒指導、教育相談、特別支援が連携しての適切なケース会議開催など、組織的な取組をさらに充実させることが課題である。 ○児童自らが、安全に生活する意識を高められるようにする必要がある。	・児童一人ひとりの実態に応じた、支援や相談体制のさらなる整備	①「心と生活のアンケート」を活かした、積極的な生徒指導、教育相談を行う。 ②生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを組織的に連携させ迅速、誠実に支援、相談ができるようにする。	①「心と生活のアンケート」実施後、速やかに面談や生徒指導部会等を行うことができた。 児童のあいさつ運動などが積極的になったか。 ②関係者が適切な場面で迅速に連携し、ケース会議等を開いて、事案に対応することができたか。				
		・児童の安全意識の向上と、施設設備の点検、修繕の徹底、迅速化	①「校内安全マップ」など、児童自身で安全への意識を高める活動ができるようにする。 ②安全点検で見つかった修繕、補修箇所に迅速に対応する。	①校内安全マップの作製や安全にかかわる委員会活動が行えたか。 ②安全点検で見つかった修繕、補修箇所に迅速に対応できたか。				
3	〈現状〉 ○辻小学校運営協議会で、目指す児童像について熟議をし、「かかわりあい」をテーマとして、地域、家庭、学校が連携しながら、子どもの心を育てていくことを共有した。 〈課題〉 ○辻地区では既にスクール・コミュニティと言えるような取組が積み重ねられてきており、学校運営協議会で共有した、子どもの健全育成のための「かかわりあい」を時代に合わせて、これまでの取組も含め、どの様に実現していくかが課題である。	・目指す児童像を実現し、「かかわあい」の在り方を共有するための、ＩＣＴも活用した情報発信	①学校Ｗｅｂページや学校安心メールで学校行事や児童の様子を紹介する。 ②動画配信などを活用し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高める。	①学校Ｗｅｂページ(平均月３回以上)や学校安心メール(行事ごと)で学校行事や児童の様子を紹介することができたか。 ②動画配信などを活用し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高めることができたか。				
		・主体的児童を育てるための、コミュニティ・スクールとしての具体策の策定	①小・中・高・地域・家庭で連携した、あいさつ運動を実施する。 ②小・中・高・地域連携事業を年３回以上実施する。	①小・中・高・地域・家庭で連携した、あいさつ運動を実施できたか。 児童の地域への親しみが増したか。 ②小・中・高・地域連携事業を年３回以上実施できたか。 児童が小中高地域連携事業に生き生きと参加できたか。				
4	〈現状〉 ○ＩＣＴの効果的な活用を発展、深化させるため、情報端末やアプリ等の活用法について、エバンジェリストを中心に研修を重ねてきた。 ○中学年以上の教科担任制で国語、算数、社会、理科、体育に取り組むことによって、その利点をさらに生かすことができている。 〈課題〉 ○逐次アップデートされる教育ＤＸに適応できるよう、組織的に取り組む必要がある。 ○教科担任制等で高まった同僚性を活かし、より働きやすい職場にしていくことが課題である。	・ＩＣＴの更なる活用による、授業や事務作業の効率化 ・同僚性を高めた、働きやすい職場の実現	①無線ＬＡＮや校務用端末を活用した授業や事務作業で業務の負担を減らす。 ②管理職が率先して職員室の同僚性を高め、支え合い、高め合う職員集団にする。	①事務作業や事務用品の効率化ができたか。 職員アンケートで、業務の効率化に対する肯定的なアンケート７０%以上。 ②職員アンケートで、働きやすい職場に対する肯定的なアンケート７０%以上				